

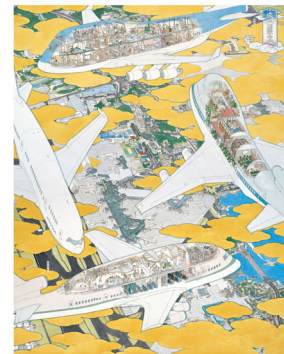


No. sma0046

(2020.2.13)

サントリー美術館  
リニューアル・オープン記念展 I  
「ART in LIFE, LIFE and BEAUTY」開催

会期：2020年5月13日（水）～7月5日（日）



右：成田国際空港 飛行機百珍圖（版画） 山口晃 一面 平成30年（2018）

ミヅマアートギャラリー ©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery

左：重要文化財 南蛮屏風 伝 狩野山楽 六曲一双のうち右隻

桃山時代 17世紀初期 サントリー美術館

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2020年5月13日（水）から7月5日（日）まで、リニューアル・オープン記念展 I「ART in LIFE, LIFE and BEAUTY」展を開催いたします。

サントリー美術館は「生活の中の美（Art in Life）」を基本理念に展示・収集活動を行ってきました。絵や彫刻だけではなく、日常使う道具や調度品に美を認め、生活の中で味わい愉しむ。これがわが国の美意識の特徴のひとつです。そしてその美意識のもと、多くの名品が見出され育まれてきました。当館では、1961年の開館以来、企画展や収蔵品展を通じて、このような美術作品を広く紹介してきました。

リニューアル後初となる本展では、改めてこの基本理念に立ち返り、酒宴で用いられた調度品、「ハレ」（＝非日常）の場にふさわしい着物や装飾品、豪華な化粧道具などから、異国趣味の意匠を施した品々まで、生活を彩ってきた華やかな優品を厳選してご観いただけます。また、新たな試みとして、古美術に造詣の深い現代作家の山口晃氏、彦十蒔絵・若宮隆志氏、山本太郎氏、野口哲哉氏にご協力いただき、現代アートと当館のコレクションをクロスさせた特別展示を行います。

## 《 展示構成 》

### 第1章1節 装い：浮線綾螺鈿蒔絵手箱と化粧道具



国宝 浮線綾螺鈿蒔絵手箱  
一合 鎌倉時代 13世紀  
サントリー美術館



菊唐草蒔絵化粧具揃  
一具 江戸時代 18世紀前半  
サントリー美術館

「<sup>よそ</sup>装ふ」とは、「身づくろいする、飾り整える」ことを示す古語です。生活の様々な局面に合わせて身なりや外観を整えながら、自分の心をも整えるという意味で、「装ふ」とは極めて人間らしい行為と言えます。

ここで日本の美術の歴史を見渡すと、「装ふ」ための日常の道具そのものに、実用を超えた美しく細やかな意匠が施されていることに気がつきます。

そうした装いの道具の中でも、本節では特に、平安から明治時代までの化粧道具や髪飾りを取り上げます。国宝「<sup>ふせんりょうらでんまきえてぼこ</sup>浮線綾螺鈿蒔絵手箱」をはじめとして、華麗な装飾の鏡箱や香箱、<sup>べにいた</sup>紅板、様々な技法や素材で作られた櫛、<sup>かんざし</sup>簪、<sup>こうがい</sup>笄などをご覧ください。日常生活を彩った装身具の優美なデザインとその変遷を通じて、装わずにはいられない日本人の美意識の一端が浮び上がるでしょう。

#### 【主な出品作品】

- |                                  |       |      |            |          |
|----------------------------------|-------|------|------------|----------|
| ・国宝 浮線綾螺鈿蒔絵手箱                    | 一合    | 鎌倉時代 | 13世紀       | サントリー美術館 |
| ・秋草蒔絵鏡台                          | 一基    | 桃山時代 | 17世紀初期     | サントリー美術館 |
| ・菊唐草蒔絵化粧具揃                       | 一具    | 江戸時代 | 18世紀前半     | サントリー美術館 |
| ・兜形蒔絵櫛                           | 一枚    | 江戸時代 | 19世紀       | サントリー美術館 |
| ・蒔絵大全 <sup>おおおかしゅんせん</sup> 大岡春川編 | 五冊のうち | 江戸時代 | 宝暦9年（1759） | サントリー美術館 |

## 第1章2節 装い：美人画と着物



誰が袖図屏風  
六曲一双のうち左隻 江戸時代 17世紀  
サントリー美術館



熊本ものがたりの屏風 女性のハレの日金屏風 山本太郎  
三曲一隻 平成29年(2017)  
撮影 草彌裕



浅葱紋紵地流水花束模様小袖  
一領 江戸時代 18世紀後半～19世紀  
サントリー美術館



舞踊図  
六面のうち一面 江戸時代 17世紀  
サントリー美術館

各時代の最新ファッションを表す美人画や着物は、「生活の中の美」と密接に関わるジャンルです。特に江戸時代には、経済力を蓄えた町人たちが衣服の装飾に関心を持ち、伝統にしばられない、新しい服飾の流行を生み出しました。現在の和服のもととなる小袖が上層階級から町人まで普及し、小袖のデザインの見本帳である雛形本も多数出版されています。また、女性の髪型は、江戸時代以前は垂髪や下げ髪が一般的でしたが、江戸時代になると、様々な鬘など数百種類の結髪が考案され、多様なヘアスタイルを楽しめるようになりました。

そして、単身の女性たちを描く美人画からも、移り変わるファッションの様相を知ることができます。美人画は、主に寛文年間(1661～73)に制作された「寛文美人図」の成立以降、複数の絵師たちによって量産されるようになりますが、なかでも浮世絵では主要画題の一つとなりました。女性たちは美人画によってファッションの最新情報を知り、描かれた衣装や髪型、化粧などをお手本にしました。

さらに、明治時代に西洋文化が入ってくると、女性のファッションは大きく変化します。洋装や西洋の装飾品を身に付けるようになり、西洋の髪型をヒントにした

束髪<sup>そくはつ</sup>が提唱されました。当時の浮世絵にもその影響がみられます。一方で、江戸時代以前の風俗を懐かしむ風潮も広がり、懐古的な女性像が多く描かれました。その潮流は近代以降も受け継がれ、<sup>かぶら ききよかた</sup>鏑木清方の女性像などにその影響がうかがえます。

本節では江戸時代から近代までの美人画や、化粧方法や髪型を解説した絵画と浮世絵、色鮮やかな小袖と打掛、雛形本を通して、艶やかなファッションの変遷をご紹介します。また、衣桁や屏風に衣装を掛けた様子を描いた「誰が袖<sup>た</sup>図<sup>そで</sup>屏風<sup>びょうぶ</sup>」に焦点を当て、実物の調度品を用いて、この屏風の世界観を表現するコーナー展示を行います。

### 【主な出品作品】

- ・舞踊図 六面 江戸時代 17世紀 サントリー美術館
- ・誰が袖図屏風 六曲一双 江戸時代 17世紀 サントリー美術館
- ・熊本ものがたりの屏風 女性のハレの日金屏風 山本太郎 三曲一隻  
平成29年(2017)
- ・能装束<sup>ゆきわすいせんも</sup> 雪輪水仙模様唐織<sup>ようからおり</sup> 一領 江戸時代 19世紀 サントリー美術館
- ・浅葱<sup>あさぎもんろ</sup>紋<sup>じりゅうすい</sup>紵<sup>いはな</sup>地<sup>たば</sup>流<sup>りゅう</sup>水<sup>すい</sup>花<sup>はな</sup>束<sup>ばく</sup>模様<sup>もよう</sup>小袖<sup>こそで</sup> 一領 江戸時代 18世紀後半～19世紀  
サントリー美術館

## 第1章3節 装い：鎧兜と戦のいで立ち



朱漆塗矢筈札紺糸素懸威具足  
一具 桃山時代 16～17世紀  
サントリー美術館



遙かノ景 〈空へ〉 深見陶治  
一基 平成8年(1996)  
サントリー美術館

「装い」は女性にとどまらず武将たちにとっても常に大切なものでした。武家にとって戦に赴く姿はまさしくハレの装いともいえるべき意味があったと推測できます。「小敦盛絵巻」にその一端がみられるように、『平家物語』では源平の武士が出陣するその日のいで立ちが鮮やかに語られます。16世紀半ばの鉄砲伝来以降は、

一騎打ちから鉄砲を使用した集団戦へと合戦形態も変化をみせ、甲冑武具も次第に様変わりします。天下統一に向けて活躍した武将たちは、着用する鎧や兜、さらには陣羽織や旗印、馬具や刀装具といった装いに、自らの信念や心意気を込めて意匠を施しました。今に伝わる武器や武具の一つ一つには、金工、漆工、染織など、その時代の高度で多様な工芸技術が集約されています。武具としての機能を優先しながらも、その細部の精緻さや、現代にも通じる斬新なデザイン感覚には目を奪われます。

本節では、鮮やかな色彩が引き立つ華麗な甲冑や、「法螺貝」や「蜘蛛の巣」といった大胆な意匠の鞍くらに、ダンディズムと言ってもよいサムライの美意識を探ります。

### 【主な出品作品】

- ・朱漆塗矢筈札紺糸素懸威具足 一具 桃山時代 16～17世紀  
サントリー美術館
- ・碁石頭切付縫延二枚胴具足 一具 江戸時代 17世紀  
サントリー美術館
- ・芒蜘蛛蒔絵鞍 一背 桃山時代 16世紀後半  
サントリー美術館
- ・小敦盛絵巻 一卷 室町時代 16世紀  
サントリー美術館
- ・遙カノ景〈空へ〉 深見陶冶 一基 平成8年(1996)  
サントリー美術館
- ・(新作) WHO ARE YOU ～木下利房と仮定～ (仮題) 野口哲哉  
令和2年(2020) ギャラリー玉英

## 第2章1節 祝祭・宴：祝いの調度



桐鳳凰図屏風

六曲一双のうち右隻 江戸時代 17世紀  
サントリー美術館



切子 三ツ組盃・盃台  
一組 江戸時代後期～明治時代初期 19世紀  
サントリー美術館



五節句蒔絵手箱 柴田是真  
一合 明治時代 19世紀  
サントリー美術館

華やかな作品が集まる当館のコレクションには、ハレの場を演出してきた祝いの品々が多く揃っています。誕生・元服・婚礼といった人生の節目には、吉祥文様の施されたうつわや屏風など、祝いの調度が用意され、ハレの舞台を彩りました。また、ハレの儀式には賀茂競馬<sup>かもくらべうま</sup>や祇園祭などの神事や祭礼、正月・ひな祭り・端午などの五節句といった年中行事が挙げられますが、これらを主題とした絵画や浮世絵も数多く制作されています。このようなハレの美術は、人々にとって、生活の中の祝祭がいかに重要な意味を持っていたかを伝えています。

本節では、賀茂競馬や祇園祭、年中行事などに取材した絵画や浮世絵、婚礼調度として制作された屏風、祝いの席で用いられたうつわ、吉祥の意匠を散りばめた漆作品などによって、当時の人々のハレの日の高揚感を浮き彫りにします。

### 【主な出品作品】

- ・日吉山王祇園祭礼図屏風<sup>ひえさんのうぎおんさいれいず</sup> 土佐派 六曲一双 室町時代 16世紀  
サントリー美術館
- ・桐鳳凰図屏風 狩野探幽 六曲一双 江戸時代 17世紀 サントリー美術館
- ・切子 三ツ組盃・盃台 一組 江戸時代後期～明治時代初期 19世紀  
サントリー美術館
- ・五節句蒔絵手箱<sup>しぼた ぜしん</sup> 柴田是真 一合 明治時代 19世紀 サントリー美術館
- ・貝尽蒔絵硯箱・料紙箱<sup>おがわりつ</sup> 小川破笠 一具(二合) 江戸時代 18世紀  
サントリー美術館
- ・分福茶釜 五客組盃 五節供蒔絵 彦十蒔絵・若宮隆志 一組  
平成29年(2017) 個人蔵

## 第2章2節 祝祭・宴：宴の屏風と酒のうつわ



邸内遊楽図屏風

六曲一隻 江戸時代 17世紀

サントリー美術館



色絵葡萄鳥文瓢形酒注

一口 江戸時代 17世紀

サントリー美術館



七宝飾花形鉄製銚子

一口 江戸時代 19世紀

サントリー美術館

宴は日々の生活におけるハレの場の代表です。宴の様子をこと細かに描いた「遊楽図」と呼ばれる絵画をみると、人々の楽しげな熱気が直接伝わるようです。音楽や踊り、ゲームなどを取り入れて、宴を盛り上げようと工夫を凝らす姿は、現代の私たちにも通じるものがあります。

今も昔も、宴に欠かせないものはお酒です。酒器のバリエーションの豊かさや、手の込んだつくりの一つ一つをみれば、宴席でお酒を味わいながら、酒器の美しさや面白さをも愛でる人々の姿が想像されます。

ここでは、晴れやかな酒宴を主題とした屏風や掛軸とともに、漆器、陶磁器、ガラス器と様々な技法で作られた酒器をご覧ください。さらには、「上野花見歌舞伎図屏風」をヒントに、酒器や食器、楽器、煙草盆を立体的に組み合わせ、当時の酒宴の楽しげな雰囲気再現を試みます。

【主な出品作品】

- ・ 邸内遊楽図屏風 六曲一隻 江戸時代 17世紀 サントリー美術館
- ・ 上野花見歌舞伎図屏風 伝 菱川師宣 六曲一双  
江戸時代 元禄6年(1693)頃 サントリー美術館
- ・ 朱漆塗瓶子 一口 室町時代 15世紀 サントリー美術館  
しゅうろうしぬりへいし
- ・ 色絵葡萄鳥文瓢形酒注 一口 江戸時代 17世紀 サントリー美術館  
いろえぶどうとりもんひきごがたしちゅう
- ・ 七宝飾花形鉄製銚子 一口 江戸時代 19世紀 サントリー美術館  
しっぽうかざりはながたつせいちょうし
- ・ 切子 蓋付三段重 一合 江戸時代後期～明治時代初期 19世紀  
サントリー美術館

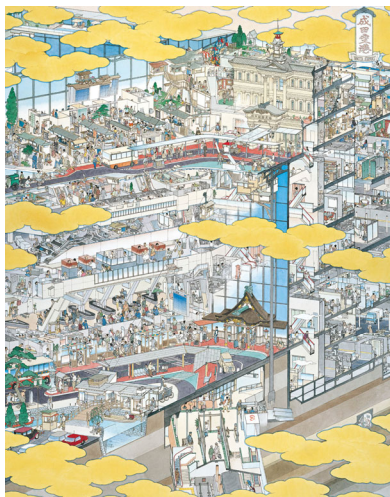
第3章1節 異国趣味：南蛮屏風と初期洋風画



重要文化財 泰西王侯騎馬図屏風

四曲一双 桃山時代～江戸時代初期 17世紀初期

サントリー美術館

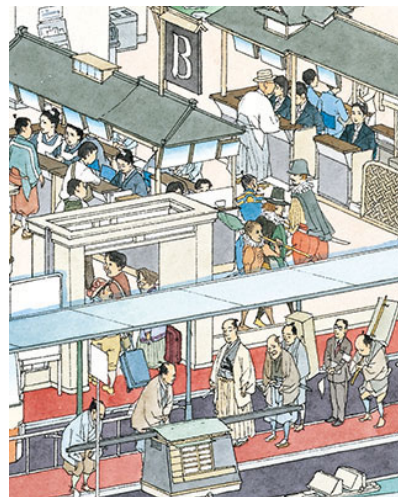


成田国際空港 南ウイング盛況の圖(版画) 山口晃

一面 平成30年(2018)

ミヅマアートギャラリー

©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery



成田国際空港 南ウイング盛況の圖(版画)部分 山口晃

一面 平成30年(2018)

ミヅマアートギャラリー

©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery



桃山時代、ポルトガルやスペインとの交流を通じて生まれた南蛮美術は、サントリー美術館のコレクションの、大きな柱の一つです。貿易やキリスト教の布教を目的に来日したポルトガル人やスペイン人は人々の関心の的となり、彼ら南蛮人を描いた「南蛮屏風」が流行しました。南蛮屏風とは、自国を出港した巨大な南蛮船や、日本への入港、珍しい文物・動物などの荷揚げ、総司令官であるカピタン一行の上陸や行列、異国情緒あふれる自国での様子などを伝統的な日本の技法や様式で描いた風俗画で、多くのバリエーションが生まれました。

また、来日したイエズス会の宣教師たちは、セミナリヨという学校を設置し、語学や音楽、美術などの教育を行いました。初期洋風画は、このセミナリヨで西洋の陰影法や遠近法を学んだ日本人画家が手掛けたもので、礼拝用の聖画だけでなく、西洋の王侯や田園風景、世界図、都市図などの世俗画も制作されました。「泰西王侯騎馬図屏風」はこの初期洋風画の代表作で、図様は西洋の銅版画を参考にしています。

本節では、南蛮屏風と初期洋風画の名品を通じて、南蛮美術の粋をお楽しみいただきます。

#### 【主な出品作品】

- ・重要文化財 南蛮屏風 伝 狩野山楽 六曲一双 桃山時代 17世紀初期  
サントリー美術館
- ・重要文化財 泰西王侯騎馬図屏風 四曲一双 桃山時代～江戸時代初期  
17世紀初期 サントリー美術館
- ・成田国際空港 飛行機百珍圖（版画） 山口晃 一面 平成30年（2018）  
ミヅマアートギャラリー
- ・成田国際空港 南ウイング盛況の圖（版画） 山口晃 一面 平成30年（2018）  
ミヅマアートギャラリー

第3章2節 異国趣味：異国趣味の意匠<sup>デザイン</sup>



朱漆塗螺鈿沈銀六角湯桶  
一口 江戸時代 17世紀  
サントリー美術館



縞螺鈿蒔絵茶箱  
一合 江戸時代 17世紀  
サントリー美術館

16世紀後半に、西洋人との交流が始まると、絵画だけでなく漆工の分野でも、西洋人の好みを反映した「南蛮漆器」が作られました。黒く艶やかな表面に金や螺鈿が輝く日本の漆器の魅力にとりつかれた西洋人は、<sup>せいがん</sup>聖龕や<sup>せいへいぼこ</sup>聖餅箱といった宗教用具から箆笥や櫃などの日用品に至るまで、大量の漆器を日本人に注文し、本国へ輸出したのです。

一方、日本国内においても、外来の文化や文物が、当時最先端の意匠として日本人に受け入れられました。カルタのほか、南蛮人そのものが福の神のような存在としてデザイン化されるなど、南蛮趣味あるいは広く異国趣味の大流行が起こったのです。日本国内向けの漆器にも、東南アジア風の縞模様や朝鮮風の牡丹唐草文、中国的な沈金・螺鈿の技法、輸出用の南蛮漆器にみられる東洋風の各種表現など、様々な要素が見出せます。

ここでは、異国趣味を反映した屏風や漆器を通して、新しい外来の文化を積極的に受け入れて日常の美の中に昇華する、当時の日本人の柔軟な精神と旺盛な好奇心に触れていただきます。

【主な出品作品】

- ・<sup>か</sup>花下遊楽図<sup>ず</sup>屏風<sup>びやうぶ</sup> 天木宗仲<sup>あまぎそうちゆう</sup> 六曲一双 桃山時代 17世紀 サントリー美術館
- ・花鳥螺鈿蒔絵聖龕 一基 桃山時代 16～17世紀 サントリー美術館
- ・<sup>しゅうりく</sup>朱漆塗<sup>しぬり</sup>螺鈿<sup>ら</sup>沈銀<sup>でんちんぎん</sup>六角湯桶<sup>ろっかくゆとう</sup> 一口 江戸時代 17世紀 サントリー美術館
- ・縞螺鈿蒔絵茶箱 一合 江戸時代 17世紀 サントリー美術館
- ・松竹梅花鳥蒔絵医療器具入 一合 江戸時代 17～18世紀 サントリー美術館
- ・菊鶉螺鈿蒔絵ゲーム箱 一合 江戸～明治時代 19世紀 サントリー美術館

## 【本展における展覧会関連プログラム】

### ◎講演会「思い出すことども」

5月17日（日）14時～15時30分

講師：榊原悟 氏（岡崎市美術博物館館長／元サントリー美術館主席学芸員）

会場：6階 ホール

定員：100名（事前予約制／ウェブサイトより申込み）

料金：700円（別途要入館料）

◎リニューアル・オープンにあわせて、これまで「エデュケーション・プログラム」として実施してきた教育普及活動も「ラーニングプログラム」として再スタートします。展覧会について多角的に理解を深める「展覧会関連プログラム」と、子どもから大人までより気軽に参加できる「フレンドリープログラム」を中心に、多様なプログラムで皆様の充実した学びを支援していきます。詳細は決定次第ウェブサイトでご案内します。

リニューアル・オープン記念展 I  
「ART in LIFE, LIFE and BEAUTY」開催

- ▼会 期：2020年5月13日（水）～7月5日（日）  
※作品保護のため、会期中展示替を行います。
- ▼主催：サントリー美術館、朝日新聞社
- ▼協賛：三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス
- ▼協力：大日本印刷、DNPアートコミュニケーションズ
- ▼会場：サントリー美術館  
東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階  
〈最寄り駅〉 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結  
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結  
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

- ▼開館時間：10時～18時  
※金・土は20時まで開館  
※5月30日（土）は六本木アートナイト2020のため23時まで開館  
※いずれも入館は閉館の30分前まで
- ▼休館日：火曜日（ただし6月30日は18時まで開館）  
※shop×cafeは会期中無休
- ▼入館料：  
・当日券：一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料  
※20名様以上の団体は100円割引  
・前売：一般1,300円、大学・高校生800円  
※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱  
※前売券の販売は展覧会開幕前日まで（サントリー美術館受付での前売券販売はありません）  
※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ
- ▼割引：  
・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引  
※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日 時：5月14日（木）・28日（木）、6月11日（木）・25日（木）、  
7月2日（木）

11時30分～17時30分（入室は17時まで）

13時、14時、15時にはお点前があります。

会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：1日限定50名（当日先着順）

呈茶券：1,000円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、お一人様2枚まで）

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：<http://suntory.jp/SMA/>

▽プレスからのお問い合わせ：〔学芸〕池田、佐々木、〔広報〕光田

TEL：03-3479-8604 FAX：03-3479-8644

メールでのお問い合わせ、及びプレス用画像ダウンロードのお申し込み：

2020年2月13日（木）から [https://www.suntory.co.jp/sma/info\\_press/](https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/)

以 上